

No.	時点	発言者	意見	対応
1	事務検討会議①	全体 矢巾町	今回は将来人口目標を設定するということだったが、地方創生2.0のキーワードでもある「人口減少を正面から受け止める」という言葉との整合性を意識する必要はないか。	御意見を踏まえ、第2章「4 今後の方向性」において、「人口減少を正面から受け止め、人口規模が縮小しても経済成長を可能とし、社会を機能させる適応策を講じる必要があるという認識の下」を追加しました。
2	事務検討会議①	議会説明 八幡平市	第2期ビジョン策定時、八幡平市においては議会への説明を行っていないようだ。法定の議決事項である協約変更が伴うなら当然説明を行う必要があるが、そうでないならば第3期ビジョンにおいても各市町の判断という認識でよいか。	御認識のとおりです。
3	事務検討会議①	パブコメ 矢巾町	パブリックコメントの日数は盛岡市の「20日以上」に合わせることでよいか。矢巾町では「30日以上」と規定しているが、先の盛岡都市圏地域公共交通計画（盛岡市・滝沢市・矢巾町）のパブリックコメントでは、盛岡市に合わせている。	現時点では、規定の期間が長い市町に合わせ、「1か月間（30日以上）」とする予定です。
4	ビジョン懇談会①	全体 高橋委員	可能であれば、次期ビジョンにおいて地域における在留外国人問題への対応にも取り組んでほしい。岩手県内の在留外国人は人口、雇用や産業の分野においてもはや無視できないウェイトまで増加している。具体的な取組まで現状では落とし込めないかもしれないが、今後も向き合っていく必要がある課題であるので、何らかの言及があってもよいのではないか。	在留外国人の増加がもたらす圏域への影響について、現時点では把握しきれていないことから、本編への位置づけは困難ですが、今後5年間を通じて、各市町における取組を共有し、関係機関と連携しながら、圏域としての取組の可能性について検討してまいります。なお、資料編には在留外国人数の推移を掲載することとします。
5	ビジョン懇談会①	全体 役重委員	関連して、在留外国人については、文科省でも広域事業として取り組んでいくことを強調している。例えば、有効的な取組として日本語教室が考えられるが、日本語教育のスキルを持つ人材の不足が全国的に深刻な課題となっている。これらの人材を広域で育成し、共同で活用していくという点をぜひ検討していただきたい。	在留外国人の増加がもたらす圏域への影響について、現時点では把握しきれていないことから、本編への位置づけは困難ですが、今後5年間を通じて、各市町における取組を共有し、関係機関と連携しながら、圏域としての取組の可能性について検討してまいります。なお、資料編には在留外国人数の推移を掲載することとします。
6	ビジョン懇談会①	指標の設定 役重委員	これまでのビジョンは何を目指すのかがはっきりしないという問題点があったので、第3期のビジョンでは、明確に広域にフォーカスして成果指標・ゴールを考え直した方がよい。例えば、第2期ビジョンで成果指標としていた「農林業圏域内総生産額」や「製造品出荷額」という数値は、各市町が積み上げたものの結果に過ぎず、広域連携の成果であるかは全くわからない指標に留まっている。国でもインフラの老朽化と専門人材の確保の2点を強調するような動きが進んでおり、第3期ビジョンにおいては本丸となっていく。 広域連携したことで何が変わったか、広域連携したことで初めて生まれた新たなサービス・商品がどのように伸びたか、という点を可視化する必要がある。例えば、公共インフラを統合したり再整備したりするのは難しい取組ではあるが、これをやることでいかに住民の税金が節減されたかを成果とすることが考えられる。また、不足している下水道の技術者等の人材を広域連携の中でどう募集・確保し、然るべき待遇を与え、各市町でどう使いまわしていくかという点を、一丸となって考えていくことも必要になってきている。 これらの視点を第3期ビジョンに踏まえていくことを期待する。	御意見を踏まえ、各分野の指標について、適切な進捗管理が可能であることを意識し、以下のとおり設定することとします。 分野1：圏域全体の経済成長のけん引 ①法人市町民税調定額（圏域内の企業活動の活性化を反映する指標） ②圏域内観光客入込数（特に観光分野の成長を反映する指標） 分野2：高次の都市機能の集積・強化 ①圏域内主要渋滞箇所数（道路整備の成果を反映する指標） 分野3：圏域全体の生活関連機能サービスの向上 ①圏域人口の社会増減（生活関連機能サービスの改善が転入・転出に反映される成果指標） ②順調に進捗している事業の割合（生活関連機能サービスの向上に資する事業の実施状況を把握するための補助的な指標）  また、広域での人材確保については、介護分野や技術系行政職員の確保に向けた新たな取組を位置付けることとします。

No.	時点		発言者	意見	対応
7	ビジョン懇談会①	人口目標	館川委員	将来的な高齢化率を示す際に年齢区分別人口構成の棒グラフを採用しているが、このグラフは100%の上限の中で示すものとなっているので、全体が減少しているという実態が見てこない。棒グラフでは年少人口や生産年齢人口の割合はさほど減少していないが、実数は著しく減少している。30年後には働いている人の数が現在の3分の2になるということを意識しておく必要があり、この棒グラフは実態をぼやかしていると言える。盛岡広域圏の目指すところは、広域で地方創生を実現していくことにあると思うが、この5年、10年で様々なことを始めていかなければ、全てが間に合わなくなる。そのためには、より現実的に人口について分析し、それを踏まえて考えていくことが必要である。	御意見を参考にし、グラフについて変更しました。
8	ビジョン懇談会①	個別事業	菅村委員	人口減少を受けた対応ということもあると思うが、魅力ある地域に人口が流出する傾向を考えると、人口を増やしていくことも考えなければ問題解決できない部分もある。 また、地方の企業が新しい事業を生み出すのが難しい中、自分たちの会社のできることと他社のできることをマッチングするスキームが広域でできれば広がりをみせるのではないか。	御意見を参考にし、引き続き圏域での取組について検討してまいります。
9	ビジョン懇談会①	指標の設定	羽柴委員	第2期ビジョンの成果指標にある「農林業圏域内総生産額」という指標は、「いわて農業生産強化ビジョン」に委ねればよいので、次期ビジョンには不要であると考える。また、盛岡広域圏は分野2「高次の都市機能の集積・強化（人の流れをつなぐ）」は大変弱い部分だと思う。盛岡市から葛巻町への移動は時間がかかるし、滝沢市から盛岡市ですら冬場は1時間以上かけての通勤となる。高齢者の交通手段の確保も問題となっていると思うので、バスはもちろん、JRの増便も期待したい。最後になるが、夢や希望を抱かせるビジョンを期待したい。人口減少については正面から受け止めなければならないが、北東北三県の拠点を目指して、専門学校の誘致や、MICE誘致の強化など、夢のある取組を考えてほしい。	御意見を踏まえ、分野2「高次の都市機能の集積・強化」については、事業数の拡充を検討してまいります。バスや鉄道の増便などの対応については、関係する市町において連携し、必要に応じて要望活動等を検討してまいります。今後も、圏域の目指す将来像の実現に向け、連携して取り組んでまいります。
10	首長懇談会①	個別事業	滝沢市長	先月発生したカムチャッカ半島付近を震源とする地震を受け、沿岸部に津波警報が発表されたが、エアコンが設置された指定避難所はおよそ半数だったとニュースになっていた。今後も、避難命令が出るような大きな災害が生じることは十分に考えられるが、各市町村全ての避難所にエアコンを設置することは難しいと思っている。このような現状を踏まえ、盛岡広域の枠組で融通しながら活用していくという取組について調査研究いただきたいと考えている。	御意見を踏まえ、自然災害専門部会において、圏域内での活用や融通の可能性を含め、調査・検討を進めてまいります。
11	首長懇談会①	個別事業	矢巾町長	「人の流れをつなぐ（分野2「高次の都市機能の集積・強化」）」については、令和8年4月～岩手医科大学附属内丸メディカルセンターが矢巾町の岩手医科大学附属病院に移転・集約されることになった。患者の通院、学生の通学、職員の通勤のために、盛岡・矢巾だけでなく盛岡広域圏として、JR、IGRやバスの便数を増やしてもらうなど交通インフラ強化の取組について検討していく必要があるのではないか。	御意見を踏まえ、関係する市町において連携し、必要に応じて要望活動等を検討してまいります。

No.	時点		発言者	意見	対応
12	首長懇談会①	個別事業	矢巾町長	「暮らしの安心をつなぐ（分野3 「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」）」については、盛岡市では犯罪被害者支援条例を4月に施行しているが、矢巾町でも県警紫波署から犯罪被害者支援の取組を要請されている状態。可能であれば、盛岡広域圏として犯罪被害者支援の取組を共同で行っていくことはできないか。	御意見を踏まえ、広域的な連携の可能性について検討を進めてまいります。
13	首長懇談会①	個別事業	矢巾町長	これらの取組を行っていくためには、岩手県からの支援も欠かせない。現状、矢巾町の最新の出生者数は令和元年から3割減って140人という状況にある。盛岡広域圏全体の人口も、現在の推計を遙か上回るスピードで減少していくことが危惧される。このような中、地域の産業・介護・農業分野において専門人材の育成・確保が急務であり、地方創生2.0基本構想も踏まえ、第3期ビジョンの中で人材育成について位置付けていくとともに、「外国人技能実習生の受入れ」についても検討を進め、「産業の営みをつなぐ（戦略1 圏域全体の経済成長のけん引）」を実現していきたい。	御意見を踏まえ、第3期ビジョンでは、介護分野や技術系行政職員の確保に向けた新たな取組を位置付けることとします。また、地方創生2.0基本構想も踏まえつつ、産業・農業分野を含めた専門人材の育成・確保に向けた広域的な連携の可能性について検討を進めてまいります。
14	首長懇談会①	個別事業	滝沢市長	犯罪被害者支援については滝沢市でも日々検討していくこととしているが、6月に盛岡市で発生したひき逃げ事案は盛岡市の条例の対象とならなかったのか。どのような方が対象になるのか基準作りをしていく必要がある。今後の連携を視野に入れて情報交換を密にやっていければと思う。	御意見を踏まえ、広域的な連携の可能性について検討を進めてまいります。
15	首長懇談会①	個別事業	滝沢市長	出生数に関して、岩手県内を見ると、盛岡市が1,483人で、それ以外の市町村は500人以下となっている。地元定着には、高校教育の充実が鍵となっているので、出生数を増やす取組に加えて、高校教育の在り方について連携して議論を深めていければと考えている。	御意見を踏まえ、地元定着に向けた連携した取組について検討を進めてまいります。